

下野市立薬師寺小学校

1 学校課題

学びの質を高め、その深まりを重視する授業の創造
～課題解決に向けた主体的、協働的で、能動的な学びを目指して～

2 研究計画

(1) 研究の方針

- ①アクティブラーニングを追究し、児童が学びの手応えを感じる授業作り。
 - ・主体的、協働的で、能動的な「学び」の導入
 - ・プロセス（学びの過程）を大切にする授業展開
 - ・対話的な学びの重視
 - ・学びのストーリーを生み出す意欲、態度の育成
 - ・どの子も安心して学びに参加できる教室作り（学びの保証）
- ②プロフェッショナルとしての授業力（授業、授業準備、教材研究、研修）の向上。
 - ・教師が自分の授業を開き、全ての教師が研究を共有する。（教師自身の協働的な学び）
 - ・授業の巧拙や発問の技術や教材の検討でなく、観察した教室の事実に基づいて、どこで子供が学び、どこで学びが閉ざされたかを中心に話し合う。
 - ・授業検討会の充実により、授業研究の真の深まりを期待する。（振り返り）
 - ・各個人の研究テーマを設定し、個人研究を進める。
- ③育成すべき資質・能力に関する研究と実践。
 - ・何を知っているのか、何ができるのか（個別の知識・技能）の精選。
 - ・知っていること、できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）の育成。
 - ・どのように他や社会と関わり、より良い人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）の検討。
 - ・ねらいに対しての振り返り、学習課題に対してのまとめを基本とした授業展開の工夫。

3 研究内容

(1) 研究の方法

- ①個人研究を進める。

年間を通じて1人1研究を実践する。テーマは自由として、個々の教員が教育のプロとして自分の資質や教育の専門性を高める目的で自由に設定し、1年間追究する。
- ②研究授業の質を高める。

原則として研究授業公開は、1人1回実施する。児童の学びの質を高め、その深まりを重視することを前提に研究をし、アクティブラーニングを追究した授業実践を行う。
- ③授業検討会を充実させる。

授業検討会はS&Uラボ事業を活用し、外部指導者(宇都宮大学教授)の指導を受け学びの質を高める。検討会の方法は、各コーディネーター学年が工夫し、更に少人数での話し合いを取り入れ、教職5年未満の先生が発言できる雰囲気作りを心掛ける。検討会の内容をより充実させるため、授業に対してテーマを絞った検討を行う。

(2) 研究の実際

①実践研究授業

教員は1人年間1回授業を公開することを基本に研究授業を実践し、S&Uラボ事業として宇都宮大学の教授、市教育委員会指導主事に直接指導を受けること、宇都宮大学教職大学院生や市内教職員など、広く外部に授業を開くことで本校全体の学びを深める。



②実践内容

日時	形態	授業者	教科	授業内容	学年
4/13(水)	校内研修	学校課題研修	テーマ設定と個人テーマ決定		研究主任
5/11(水)	校内研修	学校課題研修	本年度の重点検討会		研究主任
6/15(水)	校内研修	学校課題研修	本年度の提案に対する研修		研究主任
7/13(水)	要請訪問	北城 篤史	社会	「豊臣秀吉の天下統一」 提案授業、検討会、本年度の重点	6年
8/30(火)	校内研修	個人テーマ研究	中間発表		研究主任
9/ 7(水)	校内研修	吉川 葵	人権	「てるちゃんのかお」	4年
9/30(金)	S&U事業	平井 真希	算数	「円の面積」	6年
		白石 孝子	音楽	「音楽づくり」	6年
10/ 5(水)	校内研修	塩田・石田	生活靴	「電車に乗って出かけよう」	なかよし
10/13(水)	校内研修	矢岡千比呂	国語	「うみのかくれんぼ」	1年
10/19(水)	幼保小	上條 愛里	国語	「うみのかくれんぼ」	1年
10/26(水)	S&U事業	稲葉 恵子	国語	「お手紙」	2年
		川島 啓	社会	「社会の変化や消費者に合わせた自動車づくり」	5年
11/22(火)	初任研	安生 知世	算数	「三角形や四角形の角」	5年
12/12(月)	校内研修	芋川 晴恵	国語	「組み立てに沿って、物語を書こう」	3年
		中田 潤子	算数	「かけ算九九づくり」	2年
12/15(水)	校内研修	齊藤 真実	音楽	「インターロッキングの音楽を作ろう」	5年
12/21(水)	S&U事業 要請訪問	野口 貴史	国語	「文と文をつなぐ言葉」	4年
		宮本 元与	算数	「三角形と四角形の面積」	5年
2/ 1(水)	校内研修	研究の振り返り	研究の反省		研究主任
2/ 8(水)	校内研修	研究のまとめ	次年度の計画案		研究主任

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ① アクティブラーニングを実現するための授業を追究した結果、児童が学びの手応えを感じることができ、児童が自ら学びに向かう雰囲気が高まり、共に協調して学んでいこうとする姿が見られた。児童の意欲が態度に表れ、学びの質の向上が見られた。
- ② 「教師の専門家としての向上」への取組では、アクティブラーニングの意義を意識することで、各教員の意欲が向上し、果敢に協調学習にチャレンジする姿勢が見られた。特にアクティブラーニングの実現のための授業展開では、毎回のように課題を浮き彫りにする取組が見られた。教員同士が声を掛け合い自主的な勉強会が開かれ、児童のより良い学びの実現のための授業改善が図られた。また、S&Uコラボ事業による、大学の教授からのご指導は、常に核心に迫った的確なアドバイスがあり、我々を元気にしてくれる助言がありがたかった。



(2) 研究の課題

- ① 協調学習の効果的な手法である、知識構成型ジグソー法をベースにし、本校に特化したアクティブラーニングの実現の研究を進めた。必要感のあるねらいの適切な提示と振り返りの時間の確保、学習課題に対してどのようなまとめが効果的なのか、児童の思考をどう見取るか、といった課題が残った。
- ② 協調学習の追究は授業の質を高めるものとなり、同時に教師の同僚性の高まりをもたらしたが、短時間での事後研究会は十分な授業検証とは至らなかった。どこか不完全燃焼の状態、せつかくの提案授業者が納得できないまま、次の実践に向かっていく様子が見られた。今後は事前に授業検討をする十分な時間と場が必要である。ぜひ来年度は、事前の検討会の実現と、次回につながるものを絞った事後研究会を実施したい。

